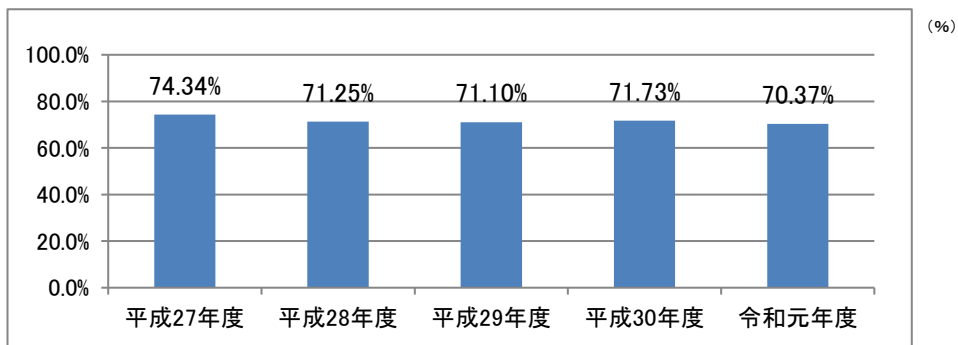


15 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

○項目の解説

高度な医療を提供するためには、画像診断をより早く、より正確に行うことが必要です。放射線科医によるCT・MRIの画像診断結果が翌営業日までに提出された割合を表現する指標です。またCT・MRIが放射線科医の監督の下に適切に行われていることを示す指標ともいえるので、実施率が高いことが望まれます。画像診断管理加算2(80%以上が算定要件)の施設基準を取得していない国立大学附属病院は数値が必然的に低くなります。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

CT・MRIの検査数は、著明な増加傾向が20年以上の間継続しています。これに伴い、読影率は減少傾向にありましたが、直近4年では読影率はほぼ横ばいで推移し、70%以上をキープしています。

放射線診断専門医数は、2021年4月より1名減少する予定で、依然として厳しい状況が継続するものと予想されますが、引き続き良質な診断レポートの作成に尽力したいと考えています。

また、将来専門医数が十分に増えた場合には、最終的に画像管理加算2ないしは3を取得できるように準備を計画していきたいと考えています。

○定義

当該年度1年間の「翌営業日までに放射線科医が読影したレポート数」を「CT・MRI検査実施件数」で除した割合(%)です。「放射線科医」とは医科診療報酬点数表の画像管理加算の要件に従い、経験10年以上、専ら画像診断に従事するものを指します。

○算式

分子: 翌営業日までに放射線科医が読影したレポート数

分母: CT・MRI検査実施件数